

第6回高等教育推進センターFD講演会 「大学教育の情報化 ～中等教育との接続から考える～」

日 時：2015年10月30日(金) 17:30～19:00

場 所：関西学院大学上ヶ原キャンパス 関西学院会館 風の間

開 会 の 辞

平 林 孝 裕 (関西学院大学 高等教育推進センター長)

本日はFD講演会「大学教育の情報化 ～中等教育との接続から考える～」に御参集いただきまして、心より感謝いたします。

今日の教育動向を語る上で避けることができない言葉に「教育の情報化」があります。教育の現場に、PCを使って文章を作成したり、インターネットを使って調べ学習をしたりできるような環境を整えることはもちろんですが、情報推進技術の進展を前提に学習そのもののあり方が変わるような取り組みがなされつつあります。教師が、教壇から黒板とチョークを使って、知識を一斉に教えていた風景が、パワーポイントやさらに電子黒板に変わったというだけではなく、これに加えて個別学習と協働学習等を組み合わせることによって、児童生徒が主体となって問題を見つけ、みずから解決できるような探求型の教育の可能性がICTの発展によって開かれつつあります。探求の過程を記録することや、相互に共有する機能においてすぐれたICT技術は単に知識や技能の習得にとどまらない児童生徒の思考力や判断力、また表現力を育む上で強力な手段となっています。このような21世紀型の能力の育成は将来の知識基盤社会への移行や、また社会のグローバル化もあり、今日の教育全体の必須の課題です。

既に総務省や文部科学省の取り組みによって、さまざまな実証研究がなされ、現場でも教育用PCの充実、電子黒板等の設置やデジタル教科書や教育用タブレットの導入が段階的に図られています。日本教育工学振興会の調査（第9回「教育用コンピュータ等に関するアンケート調査」報告書、2014年6月）によれば、学校のコンピュータ教室に1人1台の環境が整備されている小学校の割合が77%、中学校では96%であると言います。また、学校に1台以上プロジェクター、また電子黒板が導入されている割合が、プロジェクターの場合が91%、電子黒板が75%にのぼるとも言われています。タブレット等の導入は今後の課題となっているようですが、大学に至るまでの教育環境は以前と大きく様変わりをしております。私たちにとって、大学にとっての課題は今後、このような初等・中等教育を受けた若者たちが大学生として学ぶ、との現実です。

上記のような様変わりをした教育の実態は必ずしも大学教員の大きな関心とはなっていないのが現状かと思えます。しかし、段階的ではあれ、今後、情報通信技術を活用した教育を受けてき

た学生は、着実に増加することは間違いありません。このような学生にとって、今の私たちが大学の教育現場で行っている講義や授業が果たして魅力的なものであるか、彼らの期待に応え得るものであるのか、それが今、問われつつあると考えています。むしろ、初等・中等教育における教育の刷新はそのまま大学教育の刷新につながっていくということかと思えます。

本日は京都教育大学の浅井和行先生を主たる講演者とし、加えて教育の現場で新しい実践に取り組まれている発題者として、千里国際の合志智子先生、また大阪府立東百舌鳥高校、勝田浩次先生を講師にお迎えしております。

浅井先生におかれましては、副学長という重責にあり、またお二人の先生は、高校の教育現場でお忙しいところではありますけれども、講師をお引き受けくださり、心から感謝をしております。

日本の教育がどのような方向で情報化を進め、教育の何が変わっていくのかを学ぶとともに、その実際を知ることによって、将来の大学教育の課題、新世代の学生の期待に応え得る大学教育とはいかなるものであるのかを皆さんと一緒に学び、そして考えたいと思っております。